

事業紹介・事業報告

第5回国土技術開発賞の報告

鶴飼貴昭
研究第二部
主任研究員



1. はじめに

国土技術開発賞は、建設分野における技術開発者に対する研究意欲の啓発と建設技術水準の向上を図ることを目的として、建設分野における優れた新技術及びその開発に貢献した技術者を対象に表彰するものである。

特に建設分野においては、開発された技術そのものを対象として選考して表彰する事業としては、我が国唯一のものである。

JICE創立25周年である平成10年度を機に、旧建設省の後援のもと、「建設技術開発賞」と称して創設（平成11年度より表彰を開始）し、平成13年1月の国土交通省発足を契機に名称を「国土技術開発賞」と改めるとともに、財団法人沿岸開発技術研究センターとの共催で対象を拡大して実施することとし、本年は第5回の表彰を行った。

2. 第5回国土技術開発賞の概要

2.1 実施主体

（1）主催

- （財）国土技術研究センター（JICE）
- （財）沿岸開発技術研究センター（CDIT）

（2）後援

国土交通省

（3）協賛

- （財）日本建設情報総合センター
- （財）先端建設技術センター
- （財）港湾空港建設技術サービスセンター

2.2 対象技術

住宅・社会資本に係わる、計画・設計手法、施工方法、維持管理手法、材料、機械などの広範に亘る技術で、概ね過去5年以内に技術開発され、かつ過去3年以内に実用に使われた新技術とした。

2.3 応募資格等

（1）応募者

応募技術を中心となって開発した者（「個人（ ）」、「民間

法人」、「行政機関等（ ）」）。

なお、今回より、新技術の開発に携わる技術者や研究者がより積極的に技術開発を推進できる環境づくりの必要性に鑑み、応募者の対象は、従前の「個人、民間法人」に「行政機関等」を新たに加えて、その枠を拡大した。

（ ）：大学等の研究・教育機関に所属する学識経験者等。

（ ）：国及び地方公共団体等、特殊法人、独立行政法人及び公益法人とそれらに付属する研究機関等の全ての機関。

（2）共同開発者

共同開発者は、応募技術の開発に関し、応募者とならないまでも参画を行った者（個人、民間法人、行政機関等）とし、応募技術が入選した際の表彰対象とはなりません公表対象とした。

（3）技術開発者

技術開発者は、応募技術の開発に“直接”かつ“中心”となって携わった者の内、“技術的に重要な役割”を担った担当者とした。

なお、応募者並びに共同開発者以外の民間法人等に所属する者も技術開発者の対象とした。

2.4 募集期間

平成15年5月12日（月）から平成15年5月30日（金）

2.5 選考方法

選考は、第5回国土技術開発賞選考委員会を設置して実施した。

選考委員会のメンバーは以下の通りである。

委員長 中村英夫（武蔵工業大学教授）

委員 中川博次（立命館大学教授）

〃 国土交通省 技監

〃 同 大臣官房技術総括審議官

〃 同 大臣官房技術審議官

〃 同 国土技術政策総合研究所長

〃 同 国土地理院長

〃 独立行政法人 土木研究所 理事長

〃 独立行政法人 建築研究所 理事長

〃 独立行政法人 港湾空港技術研究所 理事長

〃 JICE 理事長

〃 CDIT 理事長

選考にあたっては、応募者より提出された応募書類に記されている内容をもとに、技術開発の効果、汎用性、独創性の3つの視点から総合的に評価した。

2.6 選考結果

第5回国土技術開発賞では、民間企業等から60件（第1回：75件、第2回：43件、第3回：59件、第4回：46件）の応募があり、道路、河川、上下水道、港湾・空港から建築に至るまで、建設分野全般にわたる大変幅広いものであり、その内容についても、工法、機械、材料に係わるものから、調査・計測などのソフトの開発まで多岐に亘っていた。また、いずれの技術も技術開発者の意欲と工夫に満ちたものであった。

これらの応募技術の中から、第5回国土技術開発賞選考委員会の厳正かつ公正なる選考により、
最優秀賞 1件（国土交通大臣表彰）
優秀賞 2件（国土交通大臣表彰）
入賞 10件（選考委員会委員長表彰）
の合計13件を表彰対象として決定した（表 - 1）。

今回の受賞技術は、いずれの技術も、より良いものを安くタイムリーに、しかも安全に供給するといった、時代の要請に応える優れた新技術であり、コストの縮減や品質の確保、環境との調和、リサイクルの推進、既存ストックの適切な維持などの様々な課題に対して、技術開発者の創意工夫が随所に見られた。

2.7 第5回国土技術開発賞表彰式

第5回国土技術開発賞の表彰式は、平成15年9月18日に、扇千景国土交通大臣、技監をはじめとする国土交通省の関係者の方々、並びに関係団体から多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、盛大かつ終始和やかな雰囲気で行うことができた。

また各賞の表彰においては、最優秀賞並びに優秀賞については大石久和国土交通省技監から（写真 - 1）副賞を、入賞については中村英夫選考委員会委員長から表彰状等を、それぞれ受賞技術を開発した法人代表者並びに技術開発に携わった代表者に対して、直接授与いただいた。

また、最優秀賞並びに優秀賞については、平成15年12

月16日に佐藤茂樹国土交通大臣政務官から（写真 - 2）表彰状を直接授与いただいた。

3. おわりに

今回の受賞技術については、以下に示す普及活動を実施している。

記者発表

一般紙：国土交通記者会

専門紙：国土交通省建設専門紙記者会

同 交通運輸記者会

受賞技術概要の配布

受賞技術の概要を取りまとめた冊子を作成し、国土交通省、関係公団、都道府県、政令指定都市、関係業団体、関係公益法人等へ配布（約1万部）

インターネットによる情報提供

受賞技術概要の内容をJICE並びにCDITのホームページにより紹介

（JICE）<http://www.jice.or.jp/>

（CDIT）<http://www.cd.it.or.jp/>

JICE及び関係業団体の機関誌等への掲載

現在、社会経済の情勢が厳しいことから建設投資の減少が避けられない中で、少子・高齢化社会、グローバル視点での環境問題等、これまで経験したことのない難題に直面している。

このような中で、今後の建設市場の中心となるであろう「都市再生、リニューアル、環境、福祉」等の分野においては、より高度な技術やノウハウが求められることが想定されることから、建設分野の技術者が貢献する場面は沢山あり、産学官を問わず、技術開発者の技術開発並びに技術活用に向けたインセンティブを高めることが必要である。

JICEとしては、建設分野の新技術が国民生活や国際貢献に寄与すべき実効あるものとなるよう、更にこれらの新技術が新たな産業を見出す契機となるよう、本「国土技術開発賞」を通じて、貢献していきたいと考えている。



写真 - 1 大石久和国土交通省技監と最優秀賞の受賞者

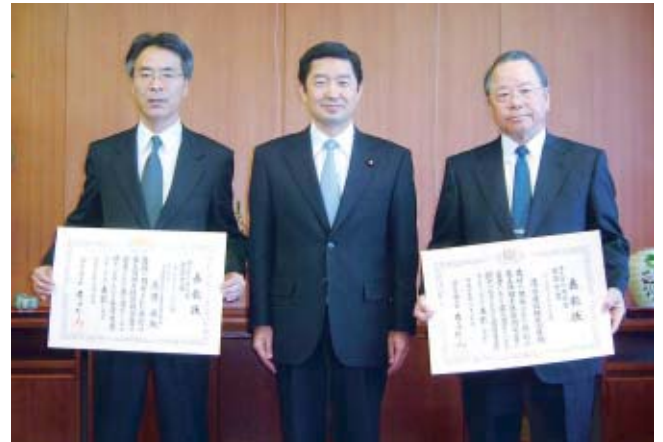


写真 - 2 佐藤茂樹国土交通大臣政務官と最優秀賞の受賞者

表 - 1 第5回国土技術開発賞 受賞技術一覧

受賞名	応募技術名称	応募会社名
最優秀賞【1件】	F-NAVIシールド工法	清水建設株式会社
優秀賞【2件】	FCF工法	株式会社 フジタ
	水質監視システム	独立行政法人 土木研究所
		富士電機株式会社
入 賞【10件】	鋼製地中連続壁工法	株式会社 富士電機総合研究所
		新日本製鐵株式会社
	SEW工法	株式会社 銭高組
		積水化学工業株式会社
	バイオ・セル・ショット工法	株式会社 大本組
	PRISM工法	前田建設工業株式会社
	HiDAX	鹿島建設株式会社
	カプセル空気輸送による立坑ズリ出しシステム	鹿島建設株式会社
	日本沿岸波浪推算処理解析システム	独立行政法人 港湾空港技術研究所
	建設ICカード	清水建設株式会社
		独立行政法人 土木研究所
		大成建設株式会社
		鹿島建設株式会社
		社団法人 日本建設機械化協会
		西松建設株式会社
	「リバ・フレッシュ」システム	株式会社 間組
	プラグマジック工法	東亜建設工業株式会社